

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】				【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標	
		人文・社会等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、多文化・異文化理解を通して、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。	(1) 正しい日本語の運用能力、他者とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2) 国際共通語としての外国語の高度な運用能力を有し、それに基づいたコミュニケーションや情報発信ができる。	(3) 国内外での多文化体験に基づいて、多様な価値観を理解できる。	(4) 国際社会および地域における課題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、総合的な視点に基づいて対応する能力を身につけている。	(1) 豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自ら課題を発見し、解決する態度を身につけている。	(2) 国際社会の一員としての意識を持ち、グローバル化が進む現代社会の諸問題に積極的に対処できる。	総合的な視点と知識を身につけ、グローバル化する現代社会の諸問題を分析する能力と技能、情報発信能力、コミュニケーション能力を有し、持続可能な地域社会および国際社会の創造に貢献できる。			
教養科目群											人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「ものの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。	
	歴史と文化	◎						○	○	◎	・人文科学分野(歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など)を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。	
	人間と生命	◎						○		○	・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根元的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野(哲学、倫理学など)、行動科学分野(心理学、教育学など)、生命科学分野(生物学、生命科学など)を含む複合的な分野を学ぶ。	
	生活と社会	◎					○	○	○	◎	・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野(法律学、政治学、経済学、経営学、社会学など)を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。	
	自然と技術	○							○			・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習	○							○			・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
創成科学科目群											現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。	
	グローバル科目	◎						○	◎	◎	・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。	
	イノベーション科目	○					○	○		○	・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。	
	地域科学科目	◎					◎	○	○	○	・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。	
基礎科目群											大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。	
	SIH道場	○	◎					○			・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。	
	情報科学	○						○			・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。	

外国語科目群									英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。		
	英語	○		◎	○		○	○	○	・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実に図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基盤英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。	
	初修外国語	○		◎				○		・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。	
学部共通科目	総合科学入門講座	○	○		○	◎	○	○	○	・日本語で論理的文章を書く能力の基礎を身につける。 ・情報リテラシーを身につける。 ・総合科学部で行っている幅広い研究の一端を知る。 ・留学その他の学習プログラムについて理解する。	
	データ分析入門						○	○		現代の情報化社会を生きていく上で、さまざまなデータを分析したり、ソフトウェアを扱ったりする機会はますます増えている。諸君がどの専門研究分野に進むにせよ、方法や程度は違っても情報処理の重要性は変わることがない。客観的なデータに基づく検証は、科学における認識の基礎である。また、諸君が卒業後に専門的職業人として活躍するのは、情報処理を避けて通れない。定型的な日常業務はもちろん、重要な意思決定シーンでデータに基づいた的確な判断を求められることは多いだろう。総合科学部では、こうした情報リテラシーをステップごとに身につけるため、体系的なカリキュラムを提供している。学部共通科目「情報処理基礎論」は、そのプラットフォームと位置づけられる科目である。この授業では講義と実習を通じて、統計学に関する基礎的な知識を学び、データ分析のための実践的な技能を身につけることができる。	
	総合科学の基礎A	○	◎					◎		現代日本語の基本的なしくみ(構造)とその適切な運用について理解することを到達目標とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識(音声・文法・語彙など)と、その具体的な運用を実践的に学び、高めていく。	
	総合科学の基礎B	◎					○		◎	近現代のみならず古代から現代に至る世界の歩みを理解し、その中で日本の位置づけを知る。また現代の日本が近隣諸国との間に抱える諸問題について、歴史学的手法を通して理解を深める。	
	総合科学の基礎C	◎	○					◎	◎	人文科学(哲学)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。	
	総合科学の基礎D								○	スポーツ健康科学における各領域の研究課題について理解する。	
	総合科学の基礎E								○	1. 心理学に関する基礎的な学術的知識を修得している。 2. 地域住民の健康増進との関連において、心理学の基礎的な学術的知識を修得している。	
	総合科学の基礎F						○		○	1. 公共政策の理念と制度体系を説明できる。 2. 公共政策学の現代的実態と課題を説明できる。	
	総合科学の基礎G						○		○	ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項を厳密に把握し理解する。	
	総合科学の基礎H	○					○		○	高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人々に対して、社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象が、どのようなしくみでなっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけることを目標とする。	
	総合科学の基礎J	○				○	○	○	○	◎	国際化の進展に対応できるような、「地域から世界を理解し、世界と協働する力」を養うことである。そのために、学生が世界各地の地域社会で生じているグローバルな課題を自らの学びやキャリアに接続し、主体的に行動できるよう支援する。あわせて、異文化理解・国際コミュニケーションの基礎や国内外のグローバル課題への理解を基盤とし、留学・海外渡航に必要な
	Academic English I	○			◎				○	○	高等学校で学んできた英語のルール(英文法・文型の基本など)と単語熟語力を再確認し、英語を読む力と多少早いスピードで聴く力を定着させる。また、英語で考え、理解し発信するための基礎訓練を行う。
Academic English II	○			◎				○	○	(1)英語で行われる大学の授業に必要な英語の基礎技能を習得する。 (2)英語の資料を読み、基本的なレベルの英語のレポートを書き、英語でプレゼンテーションができる。	

	Extensive Reading	○	◎				○	○	e-ラーニングを利用した、英語多読及び語彙構築プログラムでの学習を通じて、4000語レベルまでの語彙力・速読力を到達目標とする。継続的自律学習で英語力の維持及び向上をはかる。			
実践学習科目	キャリアプラン入門	○				◎	○	○	大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てることによって、卒業後も自律・自立して学習できる姿勢を身に着ける。			
	課題発見ゼミナール	○	◎			◎	○	○	①一つのテーマについて関連する文献を検索する。 ②役割を分担して調査研究を行う。 ③建設的なディスカッションを行い、合意形成を行う。 ④説得力のある原稿を作成する。 ⑤説得力のあるプレゼンテーションを行う。 ⑥他のチームのプレゼンテーションを適切に評価する。			
	キャリアプラン		○			◎	◎	○	1)自己理解を深め、将来ビジョンができるだけ具体的に描ける。 2)将来ビジョンと現状の差異(課題)を把握し、その解決に取り組むための行動計画が策定でき、具体的な行動を始めることができる。 3)行動する上での課題解決力や人間関係の形成について理解する。			
	インターンシップ基礎					◎	○	◎	○	①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。		
	短期インターンシップ					◎	○	◎	○	①事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。		
	実践力養成型インターンシップ						◎	○	○	◎	徳島県内の企業・団体が抱える課題に対して、受入先と学生が協働してミッションの達成を目指す、実践型のインターンシッププログラムにより、社会人としての素養(職業人意識)やコミュニケーション力を磨く。	
	グローバル日本語交流	○			◎	◎			◎	◎	サマースクールプログラムに参加することで、実践的な語学運用能力を高め、同時に国際交流プログラムの運営と実施によって、マネジメント、コーディネート、リーダーシップの能力を身に付ける。	
	国際交流・協力体験	○					◎		○	○	1 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。 2 広い視野、国際的な視野を持つ。 3 行動力・積極性を身につける。 4 社会性・対人関係力を身につける。	
コース入門科目	海外実践プロジェクト	○				◎	◎	○	◎	◎	・外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。 ・グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を分析する能力と技能、情報発信能力、マネジメント・ コーディネート能力を有し、地域社会の文化や生活の創造に貢献できる。	
	国際教養コース入門講座	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	・国際教養コースで今後学んでいく内容を理解し、各自が研究するテーマや問題意識を掴む端緒を得る。 ・研究分野・テーマごとに様々な方法論があることを理解する。	
	ジェンダー論	◎	○			◎		○	◎	○	ジェンダー論の基本を理解し、例として取り上げられるケーススタディを参考に、自分でもジェンダー論を考慮に入れた作品分析が行える基礎を身につける。	
	国際語としての英語	◎							◎		英語は現在、国際共通語として第二言語として英語を使う人々にとってのコミュニケーション手段となっている。この授業は国際共通語としての英語の役割、および世界の多様な英語について理解することを目標とする。	
	英語圏文学研究	○							◎	○	英語で書かれた代表的な文学作品の英語表現を理解し、文学作品について、多様な文化社会の背景とのつながりを理解するための研究方法を習得することを到達目標とする。	
	国際関係論								◎	◎	○	1.国際政治学の基本的な知識を修得している。 2.国際法学の基本的な知識を修得している。 3.国際社会の特徴、原理などを理解している。 4.国際問題、政治問題について多面的、論理的、主体的な思考ができる。 5.幅広い国際的な視点から考察ができる。 6.平和と戦争をめぐる諸問題に対して、その解決に向けて意欲を持つことができる。
	グローバル交渉史	◎	○						◎	◎		1.世界の歴史について、体系的、構造的に理解するための基礎的な知識を修得する。 2.現代社会の諸問題、地域的課題について、その歴史的経緯を踏まえて理解することの必要性を理解する。 3.異文化理解の難しさを学びつつ、自己の存在を歴史・社会と関連づけて理解することの必要性を理解する。

	東アジア文化研究(漢文学)	◎	○	○				○	○	伝統時代から近代に至る中国の文化を、文学・思想のさまざまなテーマを題材に解説し、中国文化の多様さと、基層に流れている部分との両面を理解することを目標とする。また、原文資料を参照しながら講義を進めることで、古典中国語の基礎的読解力を養うことをあわせて目標とする。
	日本史研究 I	◎	◎				◎		○	日本の歴史、特に近世・近代を素材として、歴史的に考える力を身に付ける。また、そこから歴史的特質を読み取る力を身につけ、さらには歴史と文化に対する理解を深めることを到達目標とする。特に史料に基づいて論点を提示し、論理的に説明できるようになる事を目標とする。
	地理学の基礎 I	○						○	○	経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうあるべきかが問われている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、私たちのくらしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考察するのがこの授業の目的である。授業ではチューネン、ウェーバー、クリスタラーに代表される古典立地論を詳しく解説した上で、現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。また、日本や世界の産業地域とその形成要因について説明する。
	比較文化論	◎	○				○	○	○	文学・文化・思想研究を中心に、世界の様々な文化に対して好奇心を抱き、学際的・総合的な比較文化研究の考え方を多面的に示し、グローバル化する世界の文化について、課題や問題点を抽出しながら考察する。この授業を通して、学生はグローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができ、かつ多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。
コース基礎科目	現代日本の映画文化 I (Contemporary Japanese Cinema I)	◎	○	◎			○	○		This course offers an introduction to the cinema of director Kurosawa Akira, who remains one of the greatest film directors in cinema history, bridging the Post-WarII gap between East and West in a prolific career spanning over fifty years. In this course we will not only discuss the period films (jidai geki) and contemporary films (gendai geki) directed by Kurosawa, but also focus on the historical and socio-cultural context of his films.
	現代日本の映画文化 II (Contemporary Japanese Cinema II)	◎	○	◎			○	○		Subject of this course are important Japanese films which represent different stages through which Japanese film history has progressed. All readings will be in English, by critics and scholars from Japan, North America, and Europe. Class time will be devoted mostly to seminar-style discussions.
	日本語学概説	○	◎							この授業では、日本語の敬語や配慮表現を中心に講義する。敬語一般の基礎的な知識を身につけること、敬語や配慮表現について取り上げ、実際に敬語研究に触れ、日本語の敬語について理解することを目標とする。これまで敬語、配慮表現に関連する日本語学各方面で得られた研究成果を概説的に学習する。科学的視点での、もの見方、とらえ方などを日本語学上の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。
	方言と社会	◎	○							ことばと地域、ことばと社会のそれぞれの関わりという点から考え、方言の特色について学ぶ。自分がこれまでに使ってきたことばについて振り返り、ことばに対する興味をさらに深めていきたい。
	日本表象文化論 I	◎	◎				◎			明治時代に書かれた評論・小説作品に広く触れることで、基礎的な文学史の知識を習得することを目指します。また、「近代小説」の特質について考えを深め、その点を意識しながら小説を読む力を身につけることを目指します。
	日本表象文化論 II	◎	◎				◎			・明治・大正・昭和期に書かれた文学作品(小説・詩など)に広く触れることで、基礎的な文学史の知識を習得する。 ・作品が書かれた社会的・文化的背景を理解し、多角的に物事を捉える力と読解力を身につける。
	アジア社会論 I	◎	○					○	◎	東アジアの諸地域の社会を知る上で必要な歴史を理解する。
	アジア社会論 II	◎	○					◎	◎	東アジアの諸地域の社会を知る上で必要な歴史を理解する。
	異文化間コミュニケーション	○	◎	◎			○		○	1. Understand various aspects of cross-cultural communication 2. Understand where stereotypes come from and the danger of stereotypes 3. Understand one's cultural identity and how it has affected your way of communicating 4. Understand how different cultures are affected due to their religious, historical or sociological influences 5. Become citizens who are more aware of the importance of mutual understanding

応用日本語学概説			○	○					○	現代日本語の構造(しくみ)について、客観的に観察、分析、説明できる能力を身に付けることを到達目標とする。現代日本語の文法構造を知ることで、国語教師、日本語教師や日本語研究者など、3年次以降の日本語研究や、将来的な職業選択に生かすことも視野に入れる。	
Academic Communications I	◎		○	◎	◎	○	◎	◎	◎	ライティングテーマはnarrative, description, comparison and contrast, expositoryである。また、ペア・グループワークを通し、グローバルテーマ関係のディスカッション&プレゼンテーションスキルを養う。	
Academic Communications II	◎		○	◎	◎	○	◎	◎	◎	議論を整然と展開して、論文やレポートを書くことができる。また、ペア・グループワークを通し、グローバルテーマ関係のディスカッション&プレゼンテーションスキルを養う。	
実用外国語基礎演習 I (ドイツ語)	○			◎					○	1 比較的簡単なドイツ語のテキストを、辞書を用いながら読めるようになっている。 2 初級文法習得の度が1年次の時より向上している。	
実用外国語基礎演習 I (フランス語)	○			◎					○	1. フランス語のテキストを正しく発音できる。 2. 1年次に身に付けたフランス語の文法事項や表現を応用して、日常生活の場面で用いることができる。 3. フランス語文化圏についての関心を高める。日常生活の場面で基本的なフランス語の表現を用いることができる。	
実用外国語基礎演習 I (中国語)	○			◎					○	中国語入門・初級で身につけた中国語の基礎力を、語法・語彙と読解を中心として応用水準に高めることを目標とする。	
実用外国語基礎演習 II (ドイツ語)	○			◎					○	・初級から中級程度のドイツ語が読め、簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につけること。 ・外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成。	
実用外国語基礎演習 II (フランス語)	○			◎					○	1. フランス語のテキストを正しく発音できる。 2. フランス語の平易なテキストを理解できる。 3. 日常生活の場面で基本的なフランス語の表現を用いることができる。 4. フランス語を用いて簡単な情報収集ができる。 5. フランス語文化圏についての関心を高める。	
実用外国語基礎演習 II (中国語)	○			◎					○	確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。	
実用中国語演習	○			◎					○	1. 中国語の基本的な表現力と国際社会で活躍できるコミュニケーション能力を身につけてもらうこと。 2. 中国の異文化に対する理解を深めること。	
Advanced Academic Communications I	○			◎					○	ライティングテーマはnarrative, description, comparison and contrast, expositoryである。また、ペア・グループワークを通し、ディスカッションスキルを養う。	
Advanced Academic Communications II	○			◎					○	議論を整然と展開して、論文やレポートを書くことができる。	
英語研究(Studies in English-Linguistic Approaches)	○			◎			○	○	○	授業の到達目標及びテーマ教師として生徒に効果的に発音指導できるよう、英語の各音素の発音と超分節的発音について学び、また発音を練習する。	
比較社会論	◎								○	◎	1. 移民の事情を学び国際社会を理解することができる。 2. 自国の文化と社会を相対化し、理解することを目指す。 3. 日本に住む外国人の事情を学び異文化理解を深める。
国際協力論	◎								○	◎	外国文化(異文化)の理解 現代社会や地域の課題を分析する能力の養成 国際感覚の養成 グループ・ワークの実施
国際関係論 II								○		○	本授業では、国際関係論における中心的な議題の1つである紛争と平和の議題について、国際政治学の知見に加え、国際法学や平和学などの知見を踏まえ、国際関係論の学際性を活かした学修を行います。
西洋史研究 I	◎			○				○	○	○	「自由」や「平等」といった理念が「人種」といった要因によって歪曲されてきた歴史を踏まえ、現代における人種問題の諸相について理解を深める。
西洋史研究 II	◎		○					○	○	○	西洋近現代史上のいくつかの重要な事象や問題について、歴史的なパースペクティブをもって多面的に捉えられること。そして、自分が学習したことについて、明快で論理的な文章によって表現できること。
アフリカ地域研究	◎								○	○	具体的な地域問題が発生する仕組みを社会構造との関連で把握することができる。 地域社会の特質を人文・社会・自然科学を総合して把握できる。
東アジア社会文化研究 I	◎		○	◎				○	○		基礎的な漢文の句法になじみ、返り点にたよらずに簡単な漢文であれば意味をとり訓読ができるようになる。
東アジア社会文化研究 II	◎		○	◎				○	○		基本的な句法・語彙の文であれば、訓点のついていない原文であっても、訓読によっておおよその意味をとれるレベルを目指す。また、自分が関心を持ったキーワードに即して、儒教思想の特色を説明できるようなることを目指す。
現代科学論研究	◎		◎			○	◎			○	1. 科学史・科学哲学に関わる幅広い知識の理解を目標とする。 2. 日本語で論理的な文章を書くことができる能力の養成を目標とする。

応用倫理学研究	◎	○						◎	1. 生命倫理学分野の代表的なテーマについて理解し、哲学・倫理学に関する基本的な知識を身につける。 2. 社会秩序に関わる規範的な考え方や、生活に密着した個人としての考え方の違いを理解し、人間の生と社会、歴史、文化、環境との関係について多角的に問題にアプローチできるようになる。 3. 現代の日本のみならず国際的な社会における諸問題に関する鋭い感受性を養い、社会の問題解決のためにどのようなアプローチが必要なのか自発的に考える方法を獲得する。	
芸術文化論	◎	○						◎	・異文化についての理解を深める ・今日の文化現象を歴史的に考察できる。 ・文化を尊重する姿勢を身につける。	
日本語学研究		◎				○	○		この授業では、日本語方言の語彙・文法・音声・音韻・アクセントについて講義を行う。また、方言音声に関する基礎的な知識を身につけるとともに方言研究の興味づけを行うことを目的にする。方言音声の分析法の基本を学び、音声学の研究成果を概説的に学習する。科学的視点での、ものの見方、とらえ方などを方言地図や方言音声の諸事例を参照・検討することによって深めてみたい。	
日本語教授法	○	◎	○				○	○	外国人のための日本語の仕組みを学び、日本語指導やコミュニケーション時の基本とする。	
日本語教育方法論	○	◎	○				○	○	◎	言語教育で用いられてきた様々な方法を知り、効果的な日本語教育の仕方を考える。また、実際に日本語を教えるにあたり、どのように授業を行っていけばいいのか、具体的な流れを理解する。
日本語教材研究	○	◎	○						○	日本語教育の授業見学と教育実習を通して、日本語教育の具体的な方法を身につける。日本語教育の現場体験を通じて、日本語教育の教材、教案作成及び実践について理解を深める。 ①初級のコースデザインを組み立てられ教えることができる。 ②初級から上級の学習者のタスク活動を企画実施できる。 ③学習共有活動の振り返りと評価が行える。
応用日本語学研究		◎								日本語教育の授業見学と教育実習を通して、日本語教育の具体的な方法を身につける。
日本文化研究Ⅰ(日本古典文学)	◎	◎					○		○	日本語教育の現場体験を通じて、日本語教育の教材、教案作成及び実践について理解を深める。
日本文化研究Ⅱ(日本近現代文学)	◎	◎					○		○	・近現代文学に関する基本的な知識と方法論を修得する。 ・文学作品の背景となる文化事象、社会的問題についても考えながら、多角的な思考力を身につけ、読解力の向上を目指す。
書道	◎						○			②初級から上級の学習者のタスク活動を企画実施できる。
日本史基礎研究Ⅰ	◎	○					○		○	③学習共有活動の振り返りと評価が行える。
日本史基礎研究Ⅱ	◎	○					○		○	近世から近代の歴史史料の解読を行い、歴史史料を分析する力を身につける 史料を解読することによって、過去の時代の社会や文化の様相を理解することができるようになる。 文献資料と地方史料の両方を史料として活用できるようになる。 古文書を解読できるようになる。
日本史研究Ⅱ	◎	○					○		○	日本の通史を理解する。 史料にもとづいて歴史的事実を確認することができるようになる。 日本の文化や歴史についての理解を深める。 日本語で論理的な文章を読み書くことができるようになる。 日本の通史の中で徳島という地域を位置づけることができるようになる。
考古学概説	◎	◎					○		○	日本列島の先史時代は、教科書に掲載されている内容とは相当異なるような形で研究が進化している。その最新の研究成果に触れて、今後の研究テーマを模索するヒントを掴む
日本文化研究演習Ⅰ(日本古典文学)	◎	◎				○	◎		◎	古代・中世の文学作品を題材に、日本文化史の中に位置づけて解読する能力を身につけることを目指す。文献等の解読並びに考察結果を発表する能力も目指す。
日本文化研究演習Ⅱ(日本古典文学)	◎	◎				○	◎		◎	古代・中世の文学作品を題材に、日本文化史の中に位置づけて解読する能力を身につけることを目指す。文献等の解読並びに考察結果を発表する能力も目指す
日本文化研究演習Ⅰ(日本近現代文学)	◎	◎				○	◎		◎	・近現代の作家・作品に関して様々な資料を調査し、作品を解読する力、分析・考察する力を修得する。 ・自分の見解を論理的に展開してまとめ、発表する力(プレゼンテーション力)も身につける。
日本文化研究演習Ⅱ(日本近現代文学)	◎	◎				○	◎		◎	・日本の近現代文学についての研究方法を学び、作品の分析・解読に必要な能力を修得する。 ・作品の背後にある文化的、社会的問題についても考え、資料に基づいて考察したことを整理し、発表する力を身につける。

コース応用科目

日本文化研究演習 I (日本現代文学・比較文学)	◎	◎			○			○	この授業では日本文学を代表する作家村上春樹の作品を研究することを通して、現代の文学の特徴と文化の状況について探究する。
日本文化研究演習 II (日本現代文学・比較文学)	◎	◎			○			○	この授業では日本文学を代表する作家村上春樹の作品を研究することを通して、現代の文学の特徴と文化の状況について探究する。
言語コミュニケーション演習 I	◎	○	◎		○	◎	◎	◎	We will cover a range of topics in Applied Linguistics, in order to provide a background for students to select a topic to pursue for their graduation paper the following year.
言語コミュニケーション演習 II	◎	○	◎		○	◎	◎	◎	The purpose is to collect data, analyse it, interpret it in the light of the literature, and explain it both orally and in written form.
デジタル・ヒューマニティーズ演習 I	○				◎			◎	The purpose of this course is to develop basic programming skills in R language. You will learn how to manipulate data and draw graphics.
デジタル・ヒューマニティーズ演習 II	○				◎			◎	The purpose of this course is to learn some methods in machine learning, apply them to a specific topic to find answers to your own research question.
社会言語学演習 I (英語)	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	The aim is to introduce students to a broad range of topics in Sociolinguistics and academic inquiry in order for students to have sufficient understanding to select a topic to pursue for their graduation research.
社会言語学演習 II (英語)	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	In 社会言語学演習 II, students will choose a topic within sociolinguistics, will create an annotated bibliography, and will begin gathering and analyzing data on their chosen research topic.
グローバル・コミュニケーション演習 I			◎	○	◎	◎	○	◎	The aim of this course is to critically examine major frameworks in leadership and how gender and/or language impacts our global society. This will be done through both spoken and written discourse.
グローバル・コミュニケーション演習 II			◎	○	◎	◎	○	◎	The aim of this course is to critically examine major frameworks in leadership and how gender and/or language impacts our global society. This will be done through both spoken and written discourse.
アメリカ文学研究演習 I	◎	○	○					○	20世紀アメリカの作家と作品、およびその時代背景の研究を深める。
アメリカ文学研究演習 II	◎	○	○					○	20世紀アメリカの作家と作品、およびその時代背景の研究を深める。
アジア社会演習 I	◎				○	○		◎	史料に基づいて分析する力を養う。このことにより問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図る力を養う。さらに多文化・異文化理解を通して、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解できるようにすることを目指す。
アジア社会演習 II	◎				○	○		◎	史料に基づいて分析する力を養う。このことにより問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理して、現代社会の諸問題や地域課題についての問題解決を図る力を養う。さらに多文化・異文化理解を通して、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解できるようにすることを目指す。
哲学演習 I	◎	◎			○			◎	哲学の原典を講読し、哲学的思考の基礎を身につける。それをもとに論文を執筆する。
哲学演習 II	◎	◎			○			◎	哲学の原典を講読し、哲学的思考の基礎を身につける。それをもとに論文を執筆する。
アメリカ史演習 I	◎	○			○		○	◎	問題発見能力および問題解析能力の養成を行う。学術研究の方法を習得するとともに、受講者による研究発表と発表に対する質疑応答および討論を行う。卒業研究にまとめ上げるために必要な批判的思考力を養成することを目的とする。
アメリカ史演習 II	◎	○			○		○	◎	問題発見能力および問題解析能力の養成を行う。学術研究の方法を習得するとともに、受講者による研究発表と発表に対する質疑応答および討論を行う。卒業研究にまとめ上げるために必要な批判的思考力を養成することを目的とする。
芸術文化演習 I	◎	○		○		◎	○	◎	芸術文化に関わる事象について、史資料や客観的な情報に基づいた調査と分析の能力を養う。歴史および現代の芸術文化の知見を通じて、現代の多様な価値観を理解し、社会の諸事象に対する自分なりの視座を養う。
芸術文化演習 II	◎	○		○		◎	○	◎	芸術文化に関わる事象について、史資料や客観的な情報に基づいた調査と分析の能力を養う。歴史および現代の芸術文化の知見を通じて、現代の多様な価値観を理解し、社会の諸事象に対する自分なりの視座を養う。

	ヨーロッパ史演習 I	◎	○		○		○	○	◎	問題発見能力および問題解析能力の養成をうけて、学術研究の方法を習得するとともに、受講者による研究発表と発表に対する質疑応答および討論をうけて、卒業研究にまとめ上げるために必要な批判的思考力を養成することを目的とする。
	ヨーロッパ史演習 II	◎	○		○		○	○	◎	問題発見能力および問題解析能力の養成をうけて、学術研究の方法を習得するとともに、受講者による研究発表と発表に対する質疑応答および討論をうけて、卒業研究にまとめ上げるために必要な批判的思考力を養成することを目的とする。
	倫理学演習 I	◎	◎			○		○	◎	文献調査の方法、文献の講読を通じて、倫理学・哲学の知識や議論を学ぶ。卒業論文のテーマ設定に応じて発表し、レジュメ表記、引用や文献注釈などの論文作成技法を習得する。
	倫理学演習 II	◎	◎			○		○	◎	文献調査の方法、文献の講読を通じて、倫理学・哲学の知識や議論を学ぶ。卒業論文のテーマ設定に応じて発表し、レジュメ表記、引用や文献注釈などの論文作成技法を習得する。
	アジア文化演習 I	◎	◎					○	◎	中国思想史を研究する上で必要とされる古典漢文の読解力を養い、あわせて、研究文献の検索、参考図書の利用といった研究の手続きを学ぶ。
	アジア文化演習 II	◎	◎					○	◎	中国思想・文献学の基礎的知識を、具体的な文献・本文の取り扱いと読解を題材にして、実践的に理解する。
	日本語学演習 I	◎	◎						◎	さまざまな方言およびその動態について、社会言語学的な視点から明らかにする。実際に言語調査を行い、その結果を分析することによって、社会言語学的な調査研究のあり方を総合的に理解できるようにする。
	日本語学演習 II	◎	◎						◎	1. 日本語の世代差、特に若年層の言語動態について理解する。 2. 日本語の地域差、特に四国、徳島における方言の差異、共通語化について理解する。 3. 社会言語学的な言語調査の実施とその分析を通じて、言語研究のあり方を具体的、実践的に学ぶ。 4. 地域の日本語、特に徳島における外国人の言語実態について、具体的に理解する。 5. 徳島における外国人の日本語習得について、その現場を知り実践の一助となる。 6. 日本語教育に実際に関わることで、地域の国際化のあり方について具体的、実践的に学ぶ。
卒業研究	卒業研究	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	・卒業論文を完成させるために必要な知識を獲得すること ・一年間を通して学部で勉強した知識を文書化し、卒業論文を完成する ・テーマを設定し、卒業論文にまとめる ・卒業論文を作成できる